



Do you like

some more

ENGLISH?



英語の発音とリスニング② ～ストレスとプロソディー～



前号に引き続いて英語の発音のお話です。今回は、英単語の音節（シラブル/syllable）について触れました。今回は、言葉のリズムについてお話します。発音をするときに、英語と日本語とでの大きな違いの一つは、英語が「強勢拍リズム」、日本語が「モーラ拍リズム」だということです。

えっ？またいきなり難しい？

簡単に言えば、日本語は強弱のない平坦な感じで発音し、英語は各単語や文章に「強勢」を持つ言語です。例えば、バナナ(日本語)と banana(英語)を比べてみましょう。

英語はバナ～ナって感じ？

そうですね。banana は、3 シラブルですが、二番目シラブルの a を強く発音します。この強く発音するところを「強勢」と呼び、英語では **ストレス/stress** と言います。

ストレス!? アクセントと違って言わないの？

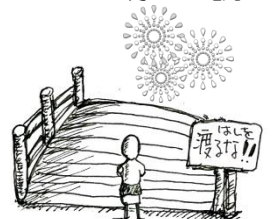
日本の英語教育ではアクセントという言葉を使っている場合がありますが、アクセントというのは、この強勢を意味する“ストレス”と音の高低を表す **ピッチ/pitch** の両方を表す言葉です。日本語にはストレスはないけれどピッチはありますね。

ピッチって速さだと思っていました。音声では高低なんですね。



日本語で同音異義語はどうやって聞き分けますか？たとえば「あめ」(雨・飴)「かえる」(帰る・蛙)。日本語は漢字が違うので書くとその違いは歴然と分かりますが、文脈以外で聞き分ける場合は音の高低ですね。一休さんのとんち話を思い出しました。

あるとき、橋のたもとに「このはしを渡るべからず」という立札があり、考えた一休さんは、橋のど真ん中を渡りました。立札に書かれた「はし」を“橋”ではなく、機転をきかせて“端”と読んだという話です。音だけならば「橋」「端」「箸」それぞれピッチが違いますね。音声ガイダンスで「このはし(橋)を渡るべからず」と言われたら、一休さんはどうしたでしょうね？



ひとやすみ～ひとやすみ～



日本語には、ピッチはあるものの、拍は1モーラ毎に打つので、「は・し」ならば、その一文字ごとに等間隔でリズムが刻まれ、強弱のない平坦な印象を受けます。実は、多くの外国人が日本語を学ぶ際に苦勞するのが、この平坦なリズムです。

外国人が日本語を話すときに独特の訛りがあるのを感じたことがありますか？

例えば、「私はアメリカから来ましたエリザベスです」というときに

「わた〜しは、あめ〜りかからきま〜した、エリーザベスです」

watashiha amerikakara kimashita erizabesu desu という風に、

英語ネイティブにとって、どこかにストレスをつけないで話すことは難しいことのようにです。

 あー！この外国語訛り、聞いたことがあります！



日本語はこういうストレスがつかないのが基本なので、どこにストレスをおかなければいけないというルールはありません。だから、「わた〜しは」、が「わたし〜は」、になったとしてもモーラ音さえ聞こえていれば通じないということがないのです。

ところが英語では、それぞれの語のストレスの位置は決まっているので、それを間違えると言葉が通じない場合もあります。Banana を「ばな〜な」ではなく「ば〜なな」や「ばなな〜」と言うと、え？なに？と聞き返される可能性は高いです。このように一語一語の強勢も重要ですが、もっと重要なのが**プロソディー/prosody** と呼ばれる、文全体でのリズムの強弱です。これは、歌でいうメロディーにあたります。

極端なことをいうと、ものすごく音痴の人が、お経のように歌うとします。歌詞は正確ですがメロディーはめちゃくちゃです。一方で歌詞はめちゃくちゃでもメロディーが正しく歌われたとしたら、どちらを「あ、あの歌だ！」と認知できるでしょう？

 それは・・・メロディーが正しい方かな。鼻歌でも曲は分かるものね。

ですよね？これと同じようにすべての単語の発音は正しいけれど、プロソディーが間違っていると英語が通じない、ということが起こります。

 ちょっとショックですね。単語の発音が完璧でも、歌詞を覚えてただけで感じて。

追い打ちをかけるようで申し訳ないけれど、日本の英語の授業で先生の後に文章を読む、いわゆるリピートアフターミー、ですが、私が知る限りにおいて、間違ったプロソディーでしている可能性が高いです。先生自身が間違っていることもあります。たとえ先生が正確に発音していても、リピートするのが団体になると、基本はモーラ拍に慣れている日本人は棒読み状態になり、修正されないまま、どんどん間違いを重ねていっていることになります。

単語におかれる強勢を **word stress** といい、文に置かれる強勢を **sentence stress** あるいは **prosodic stress** と言います。例えば **Do you know his name?**

これをモーラ拍的に発音すると、**どうー・ゆー・のー・ひず・ねーむ？**

この例文の文強勢は **Do you know his name?** do you と his は弱く、

know/name が強く発音されます。強弱があることで英語らしくなるのが分かるでしょうか？



次回は、このプロソディーとイントネーションについて考えてみたいと思います。

To be continued...

